

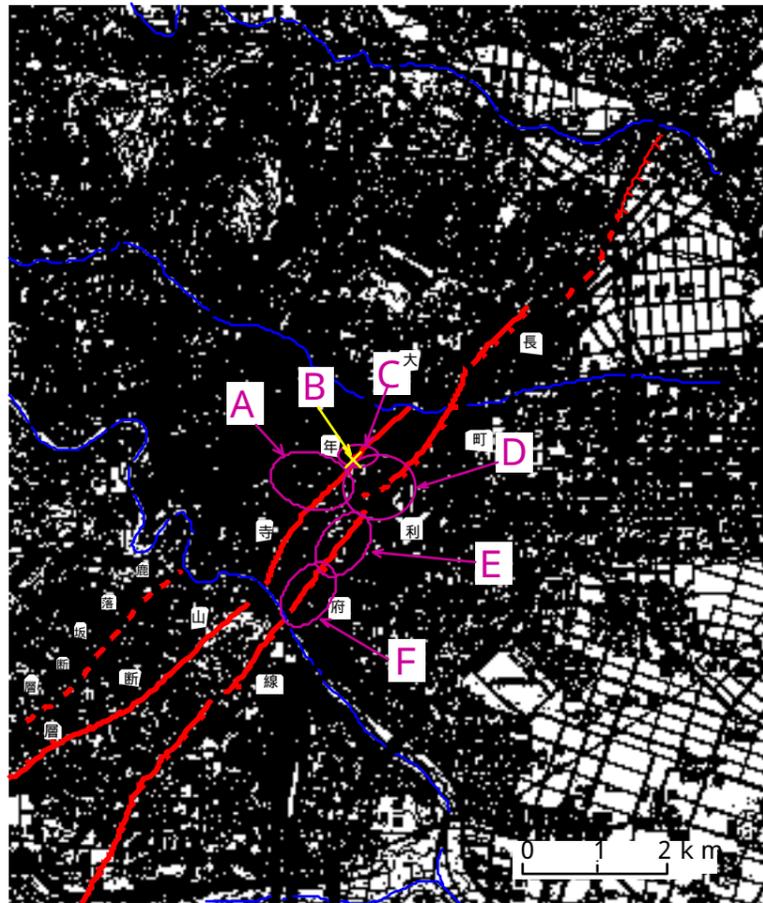
「長町 - 利府断層を歩く」

- 地域構想学基礎実習にて -

以前から気になっていた「長町 - 利府断層」。今回、実習で断層沿いを歩き、これまで気にも留めなかったことが自然と目に入ってきたり、地震が起きたときにどのような災害になるかを想像したり、地域全体を見る目が養われた。

私は高校時代、地学をとっていなかったので、地震に関する詳しい知識はありませんでした。ただ、地震に興味があるし、長町に住む私としてはとても気になる実習内容だったので、このコースを選びました。

海溝型の地震、宮城県沖地震とともに、
注意を要するのが活断層です。



仙台市街地を走る活断層（原図作成 松本秀明）

この図は4万分の1や2万分の1空中写真の判読、および現地調査結果に基づいて作成されたものです。名取川左岸の富沢付近や七北田川右岸の今市付近の沖積低地の部分については、地下ボーリング調査資料を用い、沖積層基底の深度分布をもとに断層の位置を特定しています。「長町 - 利府線」、「大年寺山断層」と呼ばれる断層は、今後も継続的に活動する活断層です。

本図の作成にあたり国土地理院発行5万分の1地形図「仙台」を使用しました。

地域構想学科1年
安齋恵美子



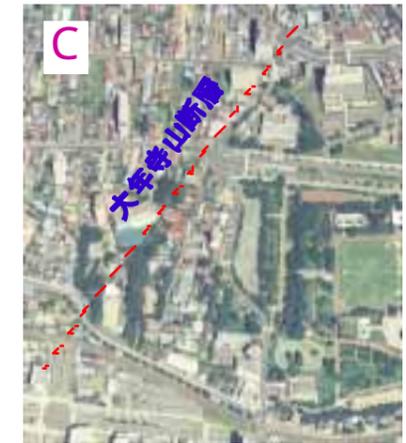
A 駅から見た宮城野通

宮城スタジアムまで続く宮城野通は平坦ではなく東の方へ緩やかな登り坂になっていることから、以前崖だったところを道路に作り替えたことが分かる。



B 副断層としての大年寺山断層露頭

教科書などできれいにずれた地層は見たことがあったが、実際にズレを生じた断層を見ることができ、いい経験をした。ズレは1.5mくらいであったから、おそらく1回分であろう。



C 榴岡天満宮付近

大年寺山断層崖は、わりと急な坂になっている。古い建物が多く倒壊の危険がありそう。住民には常に「地震に備える」という防災の意識をもってもらうことが大切。



D 榴岡公園

榴岡公園に行くときは、急な坂を登る。これまで当たり前のことだと思っていたが、この坂が断層の活動でつくられたものと聞きとても驚いた。18m以上におよぶ崖なので、1回の地震で2mずれたとすると約9回の変位を記録しているのだろう。断層上の土地利用として公園や花畑がいい。



E 二軒茶屋付近

ここにも断層が通っているはずだ。住民に「この近くに断層が通っていると聞いたのですが……」と声をかけると、思いもよらない言葉が返ってきた。「聞いたことないな〜」。二軒茶屋の道路は狭い。ブロック塀や家が崩れた状態になったら、救急車や消防車は通れないだろう。



F 河原町付近

河原町駅の近くには高層マンションが建ち並ぶ。私が高校時代、毎日自転車で横を通っていたマンションの地面は長町方面に傾いている。横には交通量の多い道路もある。地震が起きたときの被害は計り知れない。



大年寺山は隆起帯なんだね

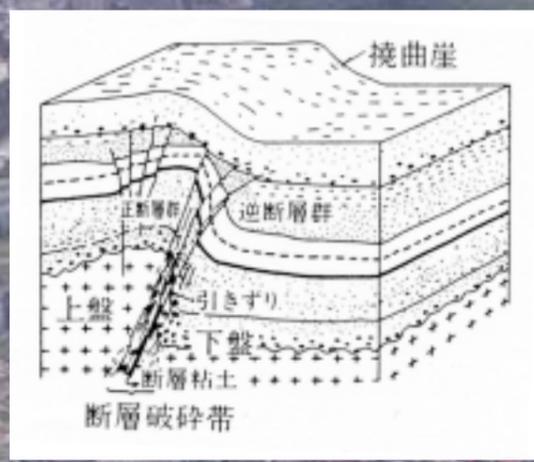
活断層を4回横切る新幹線高架

仙台駅

←フルキャスト
スタジアム宮城



地域構想キャンパス外実習
第1回 コース 5月14日



一度にこれだけ地面がのし上がるんだね
マンションの真下を通っているよ